

物流研究会

<http://miho.hiroshima-cmt.ac.jp/~NL/>

1. 2008 年度秋季研究会

(1) 日時：平成 20 年 10 月 18 日(土) 13:00~15:30

(2) 場所：神戸大学深江キャンパス(総合学術交流棟 1 階 SCS 室)

(3) 講演内容

一般講演が 3 つ行われた。

「コンテナターミナルの形状が及ぼす船の在港時間への影響分析」

黒木克典, 西村悦子, 今井昭夫 (神戸大学大学院)

マルチユーザーターミナル (MUT) では係留バースから遠い場所へコンテナを持って行かなければならないこともあり, その場合, トレーラーの走行距離が長くなり, 荷役に時間がかかる。止むを得ずコンテナの蔵置場所から離れたバースへ係留した場合でも荷役時間が長くなるようにするため, ターミナルの形状を工夫することでトレーラーの走行距離を短くし, 荷役時間を短縮する検討がなされた。シミュレーションにより, 総在港時間を求め比較した結果に, 遠方に荷役する船が多い程山型ターミナルの方が有利で, 混雑しているターミナルほどその効果は高い可能性があることが報告された。

「物流管理会社と協力会社との請負関係に関する研究」

土井義夫(朝日大学)

物流会社において請負者(協力会社)が自動車事故等を発生した場合, 発注会社(物流管理会社)の責任が問われる事案が少なくない。発注・請負関係に見られる実質的な結びつきを重視し, 判断の基準とされる今日の課題を例示して, 法遵守上の課題を関係各社の関連性等から検討がなされた。請負関係の現法制の不備とその方策の観点からは, 物流センター内での作業に関しては, 製造業など他の業種と類似の論点から他の判例を援用しやすい。しかし, ドライバーのような屋外でしかも管理者の目が届きにくい環境で業務を委託している場合につい

ても, 物流業界独自の問題として, こうした労働上の法的問題を検討していく必要があることが報告された。

「物流研究会における研究動向について」

永岩健一郎 (広島商船高等専門学校)

これまでの研究会の歴史を概観したのち, 一般講演, 物流講習会, プロジェクト研究, 特別講演を一覧にまとめた。この結果, 科研応募グループに, ①振動衝撃, ②港湾・コンテナターミナルの効率化, ③都市内物流・地域間物流, ④物流施設計画, ⑤モーダルシフト, ⑥船社経営の 6 つに研究分野の分類と担当者を割り振り, 公募してはどうかという案が報告された。

(4) 研究会総会

1) 科研応募グループについて

海事システムでの科研応募についてのあり方について検討された。周辺のカテゴリーがあるものの物流研究会の性格に近いロジスティクスで纏める提案がなされた。この点については改めて各会員に検討してもらうことになった。

2) プロジェクト研究について

本研究会の予算(研究会補助金)について検討した結果, 講習会, 特別講演の謝金に使用することとし, 承認された。

3) NAVIGATION の執筆テーマについて

編集委員より次回 171 号で海洋基本法についての特集を組むことになったので, 各研究会で問題を出すように連絡があったことが報告された。

4) その他

運営委員の明確な選出, 来年春の物流講習会の予定について承認された。

2. 2008 年度春季運営委員会

(1) 日時:平成 20 年 10 月 18 日(土) 12:00~12:55

(2) 場所:神戸大学深江キャンパス(4102 講義室)

(3) 議題

1) 運営委員の明確化

これまで運営委員会についての役職として会長、幹事、編集委員についてははっきりしていたものの、運営委員については明確な定めがなかった。このため東京、高専、私大、企業、神戸より選出し、今秋から2年の任期でおこなうことが、承認された。

2) 来年春の物流講習会について

5月に物流関係の法務問題について講習予定して、該当者をお願いをかけることになった。その他一般講習については、改めて募集することで、承認された。

3) プロジェクト研究について

本研究会の予算(研究会補助金)について検討した結果、講習会、特別講演の謝金に使用することとし、承認された。

4) NAVIGATION の執筆テーマについて

研究(解説、展望)に研究会で発表したものを1年に2テーマを選んで投稿してほしいとの連絡があったことが報告された。

次回171号で海洋基本法についての特集を組むことになったので、各研究会で問題を出すように連絡があったことが報告された。

(幹事代行：土井義夫)